



1

「もう、なんでこうなっちゃったかな」

ぼく（井田敦也）は、バスの一番後ろの席で口をとがらせた。断るタイミンをのがしたのがまずかった。

ことの始めは担任の鴻原先生の言葉だ。

「堤圭太くんがね、話をしたいんだって。井田くんと吉田さんがいいって、そうもいったの。時間があるとき、遊びに行っただけ」

堤圭太は不登校のクラスメート。かげでは「魔王」と呼ばれている。強そうだからじゃない。堤圭太が学校に来た一週間、「魔王」と書かれたTシャツを着ていたからだ。

気はすすまなかったが、まじめなぼくはなんとなく断れない。しぶしぶユナリンこと吉田悠奈とともに魔王の家に

遊びに行った。すると、魔王はいきなりいったんだ。

「おれのミッションを手伝ってくれ」って。

ったく、ミッションってなんだよって、むかついた。でも、ユナリンは優しくして、「やるやる。イダッチもやるよね」なんていっちゃった。それで、魔王につきあうために、ユナリンといっしょにバスにのっているってわけ。

ミッションというのは幽霊病院と呼ばれる廃ビルにのびこみ、写真を撮ること。魔王はネットに撮った写真をのせていて人気ものなんだという。今回も幽霊病院でおもしろい写真を撮って、注目されたいそうだ。

「一人で行けば？」って思うよな。けど、魔王の親がダメといったらしく、ぼくとユナリンが指名されたってわけ。

むかつくのは、魔王が、いちいちえらそうなこと。「そ